



徳嶺勝信

訪日ベトナム人が急増している。日本政府観光局（JNTO）の2017年1～11月までの統計によると、日本を訪れたベトナム人観光客数は28万9300人となり、17年は過去最高の30万人が見込まれている。10年の4万1882人から、8年間で約7倍の増加となっている。

JNTOは17年6月、ハノイとホーチミン市に居住する20～50代の訪日旅行経験者209人を対象に、アンケートを行った。訪問した都市と地域の回答では、東京（全体の86%）、大阪（58%）、京都（46%）、富士山（37%）と、日本観光のゴールデンルートと呼ばれる都市・地域が上位を占めた。旅行者の7割近くがこのコースを選んでいる。この地域以外では北海道、神戸、広島、名古屋、奈良、箱根、飛騨高山、福岡に続き、沖縄は6%で14番目に位置している。

今後、日本を観光したいと思っている人にも調査を行ったところ、上位4都市・地域を訪れたいという意見が圧倒的だった。そん

観光と経済 沖縄に好機

ベトナム

な状況を打破しようと動き始めたのが、北海道と中部地方の9道県だ。頻繁にベトナムを訪れ、物産販売だけでなく、航空会社や旅行会社と協力し、チャーター便を活用した観光プロモーションなどを展開している。今後も更なる増加が見込まれるベトナム人観光客だけに、沖縄もどうかしてはいられない。

2月9日には沖縄関連のニュースもあった。金泰グループのベトナム駐在事務所の開所式があり、筆者も参加した。沖縄から呉屋守将会長も来られ、ホーチミンの日本商工会、ベトナム商工会も参加して盛大に祝った。日本商工会に登録している沖縄からの駐在所開所は初めてで、ホーチミン沖縄県人会でも大変盛り上がった。特に呉屋会長の海外進出は長年の夢だったとのあいさつを力強く感じた。沖縄人は多かったと思う。

近年、沖縄からベトナム進出を考えている企業が多く見られる。県内企業と面談する機会も多く、以前より具体的な内容の相談が多くなってきた。沖縄と気候がよく似ているベトナム南部はビジネスの共通点も多く、沖縄で長年培ってきたビジネスモデルがマッチする環境にある。

（ベトナムJES代表）

次回は韓国の大嶺浩次・世一旅行社販売課次長です。